海外の話題

食の街香港に吹く風評

農林中央金庫　香港駐在員事務所長　田辺　徹也

今回の東日本大震災により被害を受けられた被災者の方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。また、日本のために、多額の義援金を始めとする多くのご支援をいただいた香港の皆様に深く感謝いたします。

地理的にも我が国に近く、文化や経済面で緊密な関係にある香港は、この震災で最も影響を受けている国・地域のひとつであり、とりわけ世界でも有数の食の街として日本食のプレゼンスも非常に高く、また我が国農水産物の最大の輸出先ということもあり、日本食関連の業界で特に大きなダメージが生じている。

言うまでもなく、震災発生数日後から急速に広がった原発にかかる風評によるものであり、突然香港人客が姿を消した日本食レストランでは、閑古鳥が鳴き、既に廃業に追い込まれた店もある。特に日本産食材を売り物にしてきた高級レストランでは最悪期で来店者数が７～８割減と想像を絶する打撃を被ったところもあったそうだ。高級日本料理店を傘下に抱えていた香港資本のある外食グループでは、さっさと西洋料理店に衣替えしたという。

ところで、当地には香港人オーナーやシェフにより運営される所謂「日式」という「日本料理」レストランがあり、多くは比較的安価であることから日本食の裾野をより多くの香港人に広げる側面を有している。その一方で、肝心の料理は日本料理と銘打っているものの、フュージョンというかハイブリッドというか、日本人の感覚からすると本来の日本料理とは相当かけ離れたものが供されることもある。こうしたレストランでさえ、震災直後は客足が大いに減少したと言われており、科学的根拠や理性とは無縁である風評被害の恐ろしさを改めて認識させられた。

無論、業界としても手を拱いている訳ではなく、現在関係者が日本人・香港人の垣根を越えて、日本食レストランの人気を回復させるべく様々なキャンペーンを展開しており、最近は日式に代表される廉価な店から徐々に客足が戻りつつあるそうだが、高級店ではまだまだ苦境が続いており、体力の限界が懸念される。さらに心配なのが、レストランの売上回復が、必ずしも日本産食材の売上やレピュテーションの回復に繋がっていないことである。震災以降、中国などからの農水産物の輸入が急増しており、日本産に代わってシェアを伸ばしているようだ。我が家のバイヤーである筆者自身も、スーパーの生鮮食品売場に並ぶ日本産野菜や果物の一部がいつの間にか台湾産や韓国産のものに代わっているのを実感している。そして、いつまでも原発問題が収束しないこともあり、震災後３カ月を経過しても日本産へ戻る気配があまり見られない。

ところで、香港は食の街であると同時に世界有数の風水の街でもある。ちなみに風水とは、風力・水力発電のことではなく、気の流れを制御して、そのエネルギーを活用する中国古来の思想だそうだ（当地では活用の方向が専ら金儲けとなっているようだが…）。例えば、香港では壁面のど真ん中に巨大な空洞を開けるよう設計されたビルをよく見かけるが、その空洞の中に気を通して、滞らせないための風水上の措置だという。数千年？を誇る風水の歴史だが、風評を滞らせず街の外に通す穴は未だ無いらしい。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます